1 社会・治安情勢

(1) カラチ市

2013年9月以降、治安機関がパキスタン・タリバン運動（TTP）等のテロ集団を集中的に取り締まり、検挙及び銃器や爆発物等の押収を進め、大規模な爆弾テロ等の阻止を図っている（通称「カラチ掃討作戦」）ほか、2015年3月11日には、準軍部隊レンジャーがシンド州を基盤とする政党「統一民族運動（MQM）」の本部を急襲し、大量の武器弾薬を押収、多数の重大事件被疑者を逮捕したことにより、凶悪犯罪が減少し、治安の回復が謳われている。しかしながら5月13日、イスラム教シーア派教徒の乗ったバスが武装集団に襲撃され、バス乗客等46人が殺害される事件が発生、テロの脅威が顕在することを示した。また、今期は上記掃討作戦開始以来初めてとなる兵士に対する襲撃や、地方選挙の際には爆発事件や政党間の抗争等、市民が巻き添えになるおそれのある事件が発生していることから、引き続き注意が必要である。

(2) バロチスタン州

10～12月も引き続き治安機関によるテロリスト掃討作戦が継続され、多くのテロリストの逮捕、投降等あるものの、宗教過激派や民族主義武装集団による異宗派、移民、治安機関等を対象とした標的殺人や爆弾テロは依然多発している。現在もバロチスタン宗派治安機関とテロ集団が臨戦状態にあり、治安情勢は極めて悪い。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) 犯罪統計

シンド州警察が発表した10～12月の犯罪統計によれば、カラチ市内における掃討作戦の成果により、総犯罪発生件数は8,100件と、前年の8,535件より減少しているものの、殺人、強盗等凶悪犯罪の発生件数は大きく減少している一方、窃盗等の一般犯罪の減少幅は小さいことから、掃討作戦の成果は一般犯罪の抑止にまで至っていない。

一方、犯罪の発生件数は減少傾向にあるものの、交通事故の発生件数は増加しており、交通事情は一向に改善されていないどころか、むしろ悪化している。よって、犯罪に対する注意警戒のみならず、安全な道路交通を十分心がける必要がある。主な犯罪種別の内訳は以下のとおり（カッコ内は前年同期）。

・総犯罪発生件数	8,100件（8,535件）
・殺人	145件（308件）
・身代金目的誘拐	9件（24件）
・暴動	109件（78件）
・強盗	662件（1,106件）
・窃盗	1,302件（1,466件）

- ・武器不法所持 1,324件(1,700件)
- ・交通死亡事故 98件(89件)

(2) 邦人関連事案
なし

3 主なテロ・爆発事件発生状況

(1) シンド州・カラチ

ア 10月23日, ジャコババード郡で自爆テロがあり, ムハッラムで行進中の22人が死亡, 40人以上が負傷した。

イ 10月31日, 地方選挙の投票実施中のカイルプル郡の投票所において, パキスタン・ムスリム連盟ファンクショナル派(PML-F)議員及び同支持者とパキスタン人民党(PPP)支持者との間で衝突が発生し, 1人が死亡, 数人が負傷した。その後, 同議員とPML-F支持者が投票所を離れたところ, 武装した男たちに襲撃され, 同支持者10人が死亡した。

ウ 11月12日, 警察がカラチ市ガダップ地区のTTP拠点を捜索したところ銃撃戦に発展, 司令官1人を含むTTP構成員6人が死亡, 大量の爆弾, 爆発物原料, 薬品, 武器, 弾薬を押収された。

エ 11月25日, カラチ市リヤリ地区の市場で手製爆弾(IED)が遠隔操作により爆発, 1人が死亡, 5人が負傷した。IEDに用いられた爆薬は約500gと見られている。

オ 12月1日, カラチ市サダル地区において, 軍用ジープに乗車した陸軍憲兵2人が, オートバイ乗車の覆面をした男2人に銃撃され死亡, 男たちは現場から逃走した。

カ 12月3日, レンジャーが「テロリスト潜伏」の情報に基づき, カラチ市リヤリ地区を捜索したところ, 銃撃戦に発展, TTP構成員3人が死亡, 武器数点が押収された。

キ 12月5日, 地方選挙の投票実施中のカラチ市ランディ地区の投票所前において, MQMとムハジール民族運動党ハッキーキー派(MQM-H)運動員の間で衝突があり, 両党合計6人が負傷した。

ク 12月6日, カラチ市シャー・ファイサル地区において, MQMとMQM-H運動員の間で衝突があり, MQM運動員1人が銃撃され重傷を負った。

(2) バロチスタン州

ア 10月19日, クエッタ市内を約40人乗車の路線バスが走行中に爆発が発生, 11人が死亡, 22人が負傷した。爆弾は時限式でバスの屋根に仕掛けられ, 約5kgの爆薬が使用されたと見られている。

イ 10月19日, 辺境警備隊(FC)がパンジガル郡を捜索したところ銃撃戦とな

- り、テロ集団「バローチ共和軍（BRA）」構成員3人を射殺、軽機関銃1丁、自動小銃2丁、爆薬2kg、手りゅう弾1個、地雷数個等を押収した。
- ウ 10月19日、シビ郡をFCの車列が走行中にIEDが爆発し、FC隊員2人が死亡、6人が負傷した。
- エ 10月19日、バーカン郡で送電鉄塔4基が何者かに爆破され、州内5郡で送電に混乱が生じた。
- オ 10月24日、カッチ郡にあるシーア派モスクの外でテロリストが自爆し、10人が死亡、12人が負傷した。自爆テロ犯は、女性のブルカを身につけた18歳前後の少年と見られている。
- カ 10月29日、クエッタ市から約40kmのマルワル炭鉱で、部族長とその親族、警備員が車両移動中に地雷が爆発、部族長1人とその親族2人が死亡した。その後、武装集団がロケット砲で警備員の乗った車両を砲撃し、警備員5人も死亡した。テロ集団「バローチ解放軍（BLA）」が犯行声明を出した。
- キ 11月1日、マストウン郡の線路でIEDが爆発し、走行中の列車の乗員4人が死亡、12人が負傷した。テロ集団「バローチ連合軍（UBA）」が犯行声明を出した。IEDには約8kgの爆薬が使用されたと見られている。
- ク 11月7日、クエッタ市において、オートバイに乗った男たちが車両移動中のハザラ人2人を銃撃し殺害、現場から逃走した。
- ケ 11月17日、クエッタ発パンジャブ州ラーワルピンディ行きの列車が、カッチ郡を走行中に制動装置の不具合により脱線、操縦士を含む20人が死亡、100人以上が負傷した。
- コ 11月25日、クエッタ市を警察が車両にてパトロール中、路傍に仕掛けられたIEDが遠隔操作により爆発、警察官3人が負傷した。IEDには約2.5kgの爆薬が使用されたと見られている。
- サ 12月2日、クエッタ市の消防署付近で時限式IEDが爆発し、2人が軽傷を負った。IEDには約5kgの爆薬が使用されたと見られている。
- シ 12月5日、FCは情報に基づきクエッタ市郊外にあるテロ集団「ラシュカレ・ジャングヴィ（LeJ）」の拠点を搜索した。FCは銃撃戦の末、LeJ構成員3人を殺害、2人を逮捕した。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

シンド州警察が発表した10～12月の犯罪統計によれば、カラチ市内における身代金目的誘拐は9件（前年同期24件）、身代金目的以外誘拐・略取は445件（前年同期362件）、児童誘拐は25件（前年同期18件）発生している。邦人が被害となる誘拐事件は発生していないものの、テロ組織が資金獲得のため犯行に及ぶ場合や、一般犯罪組織等が誘拐した被害者を金銭目的で売り渡す場合もある。在留邦人を含む

外国人が誘拐された場合には事件が長期化する携行が強いので、当地で生活する上で誘拐犯などの犯罪者に隙を与えない日常行動が重要である。

5 日本企業の安全に関する諸問題

(1) 渡航の際の留意事項

当地では現在、TTP等テロ集団による治安機関に対する報復に対して警戒を強めている状況にあることから、当地へ渡航される場合は、事前に報道等により最新の治安情報を確認するとともに、外務省ホームページに掲載されている渡航情報等を参考にし、渡航の是非を充分検討していただきたい。

(2) 駐在される場合

当地ではテロの危険がある他、強盗等の路上犯罪も頻発しており、実際にけん銃強盗の被害に遭う在留邦人も後を絶たない。また、テロ集団による営利誘拐等の被害に遭う可能性も否定できないことから、当地に滞在される場合は、必ず外務省海外安全ホームページ掲載の各種安全対策資料や当館ホームページ掲載の「安全の手引き」等をご活用の上、十分な安全対策を講じていただきたい。

もし事件に巻き込まれた場合、在外公館と在留邦人が緊密に連携して情報を共有し、安全を確保する必要があることから、当館への連絡を徹底していただきたい。